



## 株式会社 林製作所

Sheet metal + Digital fabrication

### 精密板金部品の多品種少量生産

社員数 46名

創業 98年目

製作数 1個～300個くらいまでの部品  
月に5000種類 月産計10万個製造。  
客先は大手の電機メーカーから世界が注目する  
ベンチャー企業まで全国150社。



## 当社のDX推進事例 「トップダウンのDX」 「ボトムアップのDX」



株式会社 林製作所

Sheet metal + Digital fabrication

**当社>>** 沢山の種類の金属部品を少量で超効率的に生産すること  
多くの顧客、業界と取引を行い経営を安定させつつ、受注を増やしていく

## 2015年16年頃に感じていた課題

### ① 多品種少量生産の「製造の課題」

顧客、受注アイテムが増加した結果、機械や人が増え、1日の半分以上段取りを行っている状態。受注品目が増えるほど収益性が低下

インダストリー4.0?  
IoT?

### ② 多品種少量生産の「情報の課題」

毎日数十～数百件の受注や出荷を管理。60社程度の客先が倍増し担当者だけでは受注や納期の管理に限界



## ①多品種少量生産の「製造の課題」

自動化、省力化に向けた設備投資

2018年～の7年で**投資額 約6億**

※加工が自動化・段取りが自動化・ロボットが加工

- ・ 同時に人の働き方や役割を変えないといけない
- ・ 今までの技能・技術がある日突然必要なくなる
- ・ ある社員が担当する仕事が突然なくなる

## ②多品種少量生産の「情報の課題」

自作Access、エクセル管理からの脱却 発展性のあるシステム

2018年～構想→生産管理DXシステムの選定

→開発立ち上げ

- ・ **基幹システムの変更=業務全体のやり方の変更**

**→社内全部が抵抗勢力**

**DX推進**  
社員数同じ  
売上35%アップ  
EBITDA 3倍

多額の投資が必要、多くの意思決定が必要

## トップダウンのDXでしか実現しない

会社の方向性や未来を決める経営改革と意識改革

トップのビジョンをより鮮明に言語化し、

社内に展開する管理職の協力が必要

大きな方向性の中で社員の  
細かな要望や意見はノイズ  
これを打消せるのは社長だけ

その上で社員とともに地道なPDCAを回し続ける

→ 浸透

## 発展→ボトムアップのDX

DX化で便利になった。効率が上がった。

現場の小さな業務改善のようにDX化を社員発信で進められるようになる  
投資を伴う新たな要望が社員から出てくる → トップダウンでさらに加速

社員の意識改革「マインドセット」  
→モチベーションUP



1. **DX＝単なる効率化のための技術導入という誤解**  
**未来に向けての経営改革であり経営者と社員の意識改革！という理解が無い**
2. **地方のSMEでは、そもそも経営者の経営やITのリテラシーが低く、ビジョンがない経営者が80%**  
**方針を掲げ、それを社員と共有している会社は少ない**
3. **PDCAを継続して回す仕組みが無い(DXも進まない)**

## **経営者層の意識改革、経営やDXのリテラシーの向上が必要**

- ・SMEの経営と経営者のレベル、リテラシーを評価する仕組みが有っても良い？  
ロカベンみたいな？ 補助金の条件・融資の条件などにも使える
- ・各地域でのキーマン、キー企業の協力を仰ぎ、経営者向けの見学会やセミナー開催

## 強力なトップダウンでDXを推進する(大前提)

- ・経営方針説明、年度方針で社会の変化、会社の進むべき方向と  
なぜそのためにDXが必要か毎年繰り返し説明
- ・ 社員にDX化が進んだ場合に働き方がどう変わるか？  
あなたの仕事はどうなるか？説明 (社員のモチベーションに影響)
- ・ 数年後無くなるかもしれない作業の習熟より、3年後必要になる新たなスキルの習得が重要 (リスキリン

グの機会創出)

→ **社員も自分事となる。**

## ・DX化のための教育

外部講師を招いた教育、社内PC教室、生産管理システム講習、ipad講習、ロボットの教育、Googleアプリの講習などなど毎週のように行われている。

- ・DX委員会活動・・・役職や年齢など関係なく ITに詳しい社員が担当  
業務の改善や社内の講習の講師を行う。若手社員や事務の社員などが活躍！

**意識を変える  
働き方を変える  
事を伝える**

**自分も変わる  
会社も変わる  
という期待値**

**マインドセット**